



遅れましたが、今年のじんぐうじまつりが十月七日(日)に決定しました。稚児行列や火渡り行体験などお寺ならではの行事で皆様をお迎えします。また、ずっと続けている観音祭(旧暦九月九日重陽の節句)も同時開催します。「楽しい、美味しい、ご利益がある」その様に感じて頂ける、皆様に身近なお寺を目指して計画ですので、どうぞ、「ご参拝下さい」。

楽しむ

良啓

最近、思い切って名刺を新調しました。柴燈護摩のワンシーンからの写真を使用し、インパクト大なものにしました。名刺交換の際の評判は上々です。

実は、このアイデアは高校時代の先輩の真似です。最近、独立開業したのですが、社名があだ名そのままですし、名刺の写真が大きな笑みの先輩なのです。本人曰く、「ふざけた」、私から見たら楽しそうな起業です。

さて、四国遍路の札所にも楽しい仕掛けがたくさんありました。七十五番善通寺の胎内巡りもその一つです。これは、真つ暗な地下室をひたすら歩くと言うシンプルな内容ですが、これが中々の怖さです。視覚と言う当たり前を急に奪われると、すごく不安になります。しかし、最後にロウソクに照らされた仏様に出会い、大きな安心を得ます。また、本尊が秘仏の札所では、厨子(本尊が入っている箱)から五色の紐が伸びています。この紐は、本尊の指に結ばれていて、普通触れられない本尊を触ったことになるといいます。仏教は、質素や忍耐などのイメージが強いですが、楽しむことも非常に大切にしています。

この夏は、当寺で写経や阿字観(座禅)の体験会を開催します。仏教で夏を楽しく過ごしてみませんか？

身近にある仏教語⑧

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

以心伝心
いしんでんしん

裕俊

沖縄県出身のバンド「オレンジレンジ」さんのヒット曲の曲名にもなっている有名な言葉ですね。曲名は携帯電話のコミュニケーション曲ということで「以心電信」となっていますが正しくは「以心伝心」です。文字や言葉を使わなくても、心と心で通じ合う事が出来るという意味ですが、もともとは仏教用語で、「文字や言葉では表すことのできない仏の教えの真髄を、師が弟子へと伝える」という意味で使われていました。

「心を以って心に伝う」というように読み下し文で使われることも多いです。

日本人は「空気を読む」事に長けていると言われるが、やはり相手をよく観察しなければ文字や言葉を使わずに相手の気持ちを察するというのは難しいですよ。

皆さんは身近な方々と以心伝心、できていますか？

